よねだ ところどころ

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

第四十二号

小山　長福の小山窯

ナガフク　ノ　コヤマガマ

写真上は小山の長福にある「小山窯」の全景で、下は陶芸家の佐合政昭氏の工房である。

左上の地形図は、美濃加茂市地理情報システムによるもので、飛騨川に平行に南北に走る道路の赤丸で示した場所にある。大字「小山」は、飛騨川・木曽川の合流点に位置し、古来より川湊として繁栄した。小地名「長福」は、「ながふく」と発音するがその意味は不明である。ただし、「福」が美称であり、「長」が「福」を形容する言葉と解釈すれば、「福」は福の止まるところ、港の美称ともとれる。（地名の語源による）

上流の深渡川からの浸食運搬された土砂が河岸に堆積し川原が細長く形成されていること。（ダムの出来る以前は長福・寺屋敷・土井原・緑ノ上の河岸川に連続して「川原」という小地名が表記されている。現在はダム湖に水没してその存在はみられない）

対岸は飛騨川の浸食が強く、深くなっていること。小山観音が祀られる岩山（ダムの出来る前は、渇水期に水がなくなり渡河できた）との間は浅く小舟を止めるには都合が良かった事などを考え合わせると、川湊として利用されたと考えられる。このように考えれば、連続する河岸の堆積面が長く、ここから斜面を利用し荷揚げした物資をさばく場所や小商売の場所として「長福」があったと考えても差し支えないだろうと思われる。

小山窯の工房内はアート作品製作作業場とガス窯からなり、室内には佐合さんのアート作品が数多く展示されているが、氏の若き日に世界各地を見聞された経験を反映するユニークな作品ばかりである。ちなみに、作品は日本の各地で行う個展を通し販売されている。